

2014 秋季学術大会 (第57回)

プログラムおよび講演抄録集

会期：平成 26 年 10 月 18 日(土)・19 日(日)
会場：神戸国際会議場・神戸国際展示場

H-19
[2504]

根分岐部病変2度の患者が麦飯石パウダーを使用して、進行を食い止めている症例

○渡邊美奈子¹⁾, 上田順一¹⁾, 増田重雄²⁾

(医療法人開成会うえだ歯科¹⁾, 合同会社地球環境・麦飯石研究所²⁾)

Treatment of Furcation Involvement Teeth using the Bakuhanseki Powder

○Minako Watanabe¹⁾, Yosikazu Ueda¹⁾, Shigeo Masuda²⁾

(Ueda Dental Clinic¹⁾, Research Institute of Stones for Health and Environment for the Earth LLC²⁾)

H-19

根分岐部病変2度の患者が麦飯石パウダーを使用して、進行を食い止めている症例

2504

渡邊 美奈子

キーワード：根分岐部病変

本症例は、右下第一大臼歯（後は46で表記）の根分岐部病変2度に対し包括的な治療を行い、進行を食い止めている患者の症例について報告する。

【症例の概要】患者は5年前来院当医院を診察で来院。『合同会社地球環境・麦飯石研究所』の工学博士、また、日本歯周病学会会員に所属する増田重雄氏で、自ら麦飯石パウダーを使用して歯周病予防と対策の研究を重ねていることを知り、そこに着眼しながら、経過をおった。(図1) 初診時の検査で46の舌側の根分岐部病変を確認。(図2) 特に右下舌側にブランクコントロールが行き届いておらず、見た目でも明らかなブランク沈着があった。毎来院時に染め出しをして46の歯頸部に歯ブラシの毛先が当てられるように大きかったストローク嚢を取り除くところからスタートした。

【治療方針】根分岐部病変が2度なので外科治療も視野に入れてはと伝えしたが、非外科的な治療を強く希望された。また、多忙なため、3か月間隔のデブライドメントなら継続できるということで通院。

【治療成績】見た目のブランクが確認できた頃は、46の舌側分岐がEPP6mm.BOP(++)でしたが、毎食後に使用している麦飯石パウダーにタフトブラシを併用した結果、ブランク沈着が明らかに減少した。結果、EPPは4~5mm.BOP(-)。根分岐部病変は2度あるが歯肉の状態は良好。(図3)

【考察】今回の症例は、増田氏のセルフケアの質の向上と麦飯石パウダーの歯垢を吸着除去するという効果が症状の安定に良い結果を出したものと考えられる。

【結論】セルフケアの向上により、根分岐部病変2度を非外科的に経過をみることもできると確信した。